

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成30年 7月14日
(69号)

中之島こゝろ

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学塾
第69講

「我が国のかたち」

矢作直樹先生



■ 森羅万象に神聖を感じる

我が国の歴史を理解するには、多次元世界を理解する必要があります。湯川秀樹先生は、素粒子理論により、多次元世界を提唱され、ノーベル物理学賞を受けられました。全ては「粒」で構成されているのですが、その粒の大きさにより違う次元が存在し、現在では4次元以上の世界があると想定されています。我々は肉体ある間は3次元にいますが、亡くなると高次元の意識体となり違う次元に行きます。昔の人は肉体を失くしたあとは御魂(みたま)となると言いましたが、科学的なことはわからずとも直感で知っていたのでしょうか。

縄文時代の人たちは高次元と繋がる力が強かったと考えられています。私達の祖先は森羅万象に神様が宿るという感覚を普通に持っていました。生活規範としてその感性、考えが取り入れられていたのです。我々の祖先は宗教を必要としなかった。なぜなら、理屈の抜きの森羅万象に神聖を感じる感覚があったからです。

■ 「うしはく」と「しらす」

古事記には国譲りの話があります。地上に降りられたスサノオの子孫大国主命は力で地上を治めていた。これは「うしはく(うし＝権力者、はく＝支配する)」という状態です。それに対し、天照大神が造化三神であるタカミムビノカミと相談され、もう「うしはく」世界をやめることをお決めになられた。そして、自分の直系の子孫に、国民の気持ちに汲み、その痛み喜び悲しみ苦しみを写し取りながら、神々の示される理想の社会を作りましょう、と「しらす(天皇の知らしめす)」国を作ったとあります。

徳のあるどなたかが国民と共に統治していくという「しらす」という形は大事です。今の世界の国々は、日本以外は、支配者と被支配者の関係のうしはくの形で成り立っています。我が国は天皇の「知らす国」です。これが我が国の国柄なのです。しらす、とは「調和」、そしてこれは世界のゆべき方向でもあります。

聖徳太子の十七条憲法には「和」と出てきます。この「和」の意味は「皆でよく話し合い、納得したならそれを皆で守りましょう」ということです。こうしたことはごく普通になされていました。村人たちの寄り合いなど、まさにこの姿です。

■ 近代日本のバックボーン

幕末の志士たちが徳川幕府を倒すことができたのは、西洋からのお金が出ていたからです。それは果たして何のために？ 実は西洋の一部の人たちが金融の仕組みを作りまわしているのです。幕末以前の天皇と為政者との関係と、明治維新以降は全く変わります。維新後は為政者たちが列強の国々と肩を並べるべく、西洋のやり方を取り入れました。日本の国柄を変えてしまったのです。維新後は立憲君主国となり、君主を憲法で縛るかたちになりました。天皇は神々との取次ぎをなさるお立場ですから、そこから不具合が生じてきたのです。

明治天皇は十五歳で即位されていますが、優れた方で、明治元年に五箇条の御誓文などいくつものことをされました。五箇条の御誓文は近代日本のバックボーンとなるものです。天皇になられて一番最初にされたことは、全国の神社仏閣に感謝と天皇になられたご報告に祈りをこめてまわることでした。

昭和に入り、日本は戦争に引きずり込まれ敗戦し、国民が意気消沈している昭和二年元旦、新日本建設に関する詔のなかで昭和天皇はこの五箇条の御誓文全文を述べられました。昭和天皇はたいへん英明な方であると同時に気骨があられた。つま

り、敗戦後GHQが日本に民主主義を植えたように示しているが、実は我が国は古来よりずっと民主主義であったことをお示しになられたのです。

五箇条の御誓文

- 一、広く会議を興し万機公論に決すべし
- 一、上下心を一にしてさかんに経綸を行うべし
- 一、官武一途庶民に至るまで各その志を遂げ人心をしてあぐまざらしめんことを要す
- 一、旧来の陋習を破り天地の公道にもとづくべし
- 一、知識を世界に求め大いに皇基を振起すべし

日本は戦争に負け、骨抜きにされ今があります。日本のお札には目のような形がありますが、これは西洋の金融の仕組みを仕切っている組織のマークです。

特攻隊はマスコミにおいては、犬死等正しくは評価されていませんが、実は無意味どころか戦勝国にたいへんな脅威を与えたのです。だからこそGHQが日本を叩きのめしにかかった。日本人の心のありように及ぼした降伏後における対日方針として、三つのR(復讐、改組、復活＝独立)と五つのD(武装解除、軍国主義排除、工業生産力の破壊、中心勢力の解体、国体改変し米国的民主化)、これらはポツダム宣言の受諾要求、またはその後の降伏文書の調印の内容とは違うものです。GHQはほとんど国の仕組みを触りましたが、特に言論統制、人権指令、そして公職追放令では、25万人を辞めさせました。その他、憲法改正や東京裁判。ここまでやれずにおれないほど、かつての日本人は恐れられていたということです。

日本の国柄を壊すということは、日本の良さを壊すこと。GHQは民間人を洗脳し、その呪縛を解くのはなかなか難しいことです。しかし、これはGHQの責任にしてはいけません。時をかけて壊れていくのは我々の責任でもあるのです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 矢作直樹先生

「我が国のかたち」

【Aグループ】

① 「しらす」 「天皇陛下が広く国を治められて国がまとまる」

「うしはく」 「政治的に国を治める」

② 日本は独立国ではない。

③ 洗脳に気付くことが大切。

【Bグループ】

① 医療がすすむと感謝が薄れる

② 「プロビデンスの目」

③ 日本のDNAに「中道」を求める心がある。

【Cグループ】

① 「しらす」の国＝和の精神

② 天皇陛下のあり方を考える

③ 独立していないこと＝驚愕!!

【Dグループ】

① 戦前と戦後の国体は違うが天皇あつての日本であり、米国を無視できない。

② 人を殺すことがあたりまえという人間が世界を動かしている。(OWO)

③ 戦後の呪縛をどう解放されるか＝我々は洗脳されている。

【Eグループ】

① 「うしはく」「しらす」の国

② GHQの洗脳政策＝日本は独立国ではない。

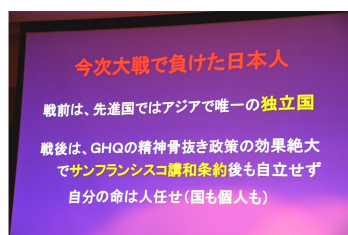
③ 日本人は人を信じて疑わない。(日本人の特殊性)

【Fグループ】

① 医療が進歩すると満足度が下がる。感謝の気持ちがなくなる。

② 多次元社会

③ 森羅万象を信じている人に宗教はいらない。

第七期への
入塾体験説明会

中村美智留塾生

第六期入塾生の
体験発表

大和 真塾生

司会進行は、
山路直美世話人
三浦しげみ塾生

福本浩之世話人



「パネルディスカッション」

松田泰英塾生

清水由佳塾生

西尾千恵子塾生

浜本雅巳塾生

今期の入塾体験には、20数名が参加くださいました。
ご紹介やお誘いくださいましたみなさま方には、入
塾へのフォローを宜しくお願い致します。



細川代表より
塾の特色などを
熱烈アピール!!

{郊外学習}

先人のふる里を訪ねて
本居宣長にまねぶ於 本居宣長記念館
三重県松阪市

第六期郊外学習は、参加22名にて、6月23日(土)午前9時集合場所の難波近鉄ビル前より一路「本居宣長記念館」を目指し車を進め、阪神高速～西名阪道～名阪道～伊勢自動車道「松阪インター」より松阪レストランにて美味な昼食を済ませ、午後1時記念館へ予定通り到着。

本館二階講座室において、記念館吉田悦之館長より「本居宣長を通じて学ぶ日本という国」と題し、約90分のご講話をいただき、また元塾生の方で伊勢市からも駆けつけて頂きました。

「この誠実な思想家は、

いわば自分の身の丈にじっくり合った思想しか決して語らなかった」

『本居宣長』小林秀雄

「子曰く、黙してこれを識し、学びて之を厭わず、人を誨えて倦まず。何か我に有らんや」

『論語』述而篇



ンッ・・・!!?

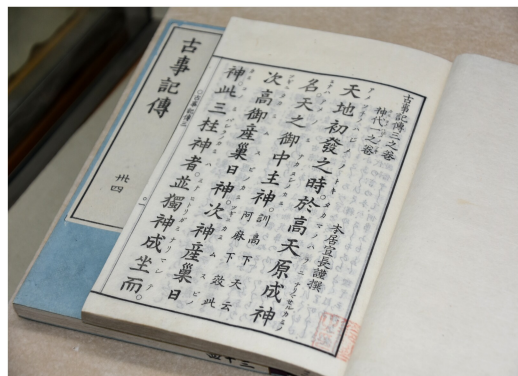


現地は、生憎の雨で予定の街中散策ができませんでしたが、その分本居宣長について管長よりたっぷりとお話を拝聴することができました。ホッ!!

(陰の声: どなたでしたか雨男・女は? 因みに大石順教尼は雨女だそうで行事には雨が付きものです)



『古事記伝』(国重文)35年継続の
成果。日本最古の歴史書『古事記』
の注釈書。



※ 残念ながらご参加頂けなかった皆様。次回の「非日常空間」へのご参加を念じております。次回は何処が良いのかな?

《お薦め書籍》

『教師の作法 修養』

西村 徹 著



出版 さくし社
頒価 1,944円(税込み)
ISBN-13: 978-4908983221

著者小学校時代の校長・東井義雄先生をはじめ、米田啓祐先生、鍵山秀三郎先生ら優れた実践家たちの言葉と、著者の経験や実践に基づく本文で各章を構成。自分を磨く。それは広く社会人に求められますが、人を育てる教師には一層強く求められます。しかし多忙な職場環境の中、何をどうやったらよいのか。本書では、毎日の生活の中でゴミを拾う、笑顔を作るなど小さな修養を積み重ねることによって一日の質、ひいては生き方も変わってくることを具体例を挙げながら示しています。何より、著者を導いた先達こそ小さな修養をたゆまず続け、その人間性で著者を導いたお手本です。

《先哲に学ぶ生き方》

森信三 先生

「働き方」

真に意義ある人生を送ろうとするならば、人並みの生き方をしていられるだけではないけないでしょう。それには、少なくとも人の一倍半は働いて、しかも報酬は、普通の人の二割減くらいでも満足しようという基準を打ち立てることです。そして行くゆくは、その働き方を二人前、三人前と伸ばしていって、報酬の方は、いよいよ少なくとも我慢できるような人間に自分を鍛え上げていくんです。

森信三

「運命を創る一〇〇の金言」より

《人間学塾・中之島》

■ 第6期 「卒塾式」

*日時 8月11日(第二土曜)

*場所 大阪大学中之島センター

10F 佐治敬三ホール

*卒塾式

開式 午後1時より

午後3時

別紙式次第に準ずる

*交歓会

開始 午後3時より

午後5時

※ 提出くださいましたか!?

■ 卒塾文集「なかのしま」寄稿案内

愈々第六期学びの「非日常空間」も7月のカリキュラムを残すのみとなり、一年間のまとめの時期となりました。「天分塾」より続けてきました卒塾文集も二〇号となります。みなさま方が一年を通しての学びや気づきを想起して原稿に書き連ねてください。

◆ 原稿締切 7月10日【厳守】

最終 7月20日

◆ 発行

8月11日(卒塾の日)



(詳細は案内確認ください)

【インフォメーション】

◆ 第七期塾生募集案内

・みやちゅう新聞に掲載

7月23日 一梓(告知案内)

8月6日 二梓(募集案内Ⅱ詳細掲載)

・ 口コミ募集

学塾・中之島は、塾生のみなさま方の口コミにより新期の入塾が、約70%になります。よってみなさま方の口コミを頼りに致しておりますので、知人友人の方々へ積極的な誘いを宜しくお願い致します。

・ 道縁読書会への募集案内送付済み(7月9日)

◆ 一社「実践人の家」全国研修大会

テーマ「人生二度なし！」

内なる自己を充実させよう!!

・ 日程 8月18日(土)～19日(日)

・ 会場 ホテルヴィスキオ尼崎

(旧ホテル「ホッポイン」アミング)

・ アクセス JR尼崎駅下車北側すぐ

・ 講演 横田南嶺老師

中桐万里子先生

神渡良平先生

木南一志先生

講話 行徳哲男先生

学生発表 金沢星稜女子短期大学部

指導 本田 実特任准教授

愛知学院大学教職研究会

指導 八谷芳樹元教授

・ 申込先 一社「実践人の家」

締切 7月31日

(宿泊希望は、早期の申込を)

※ 当日には、学塾・中之島第七期入塾案内も配布させていただきます !!